井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

いのきちさん

井の頭 吉祥寺

32号
2017年1・2月号

2017年（平成29年）1月1日
● 編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長　川井倍良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸　気付
電　話 0422-60-2211
ＦＡＸ 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp
● 協　力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構
● 制作支援
株式会社文伸 / ぶんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと4カ月

連載絵本　最終話

子狸ポン太の巻

新しい年が明けると、大騒ぎした犬の飼い主達は、狸の事も忘れたようです。井の頭池ではカイツブリのツガ助がカップルでせっせと巣作りをしています。カワセミのミドリは幼鳥に小魚の取り方を教えています。ポン太もこの池で、弁天様に守られながら母親と頑張って生きていこうと思いました。

絵　せのうさちこ　文　瀬能けい子

せのうさちこ　1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。
瀬能けい子さんは母親。

INFORMATION　2017年1～2月

井の頭自然文化園

●彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.3「西浦裕太作品展・カレラトイクトコ」

- 期間：2017年2月14日（火）～5月14日（日）
- 時間：9:30～16:30（彫刻館の開館時間）
- 場所：井の頭自然文化園 動物園（本園）彫刻館B館

「たどり着く頃には月の言葉もわかるようになっていた」

作品コンセプト（作者より）
動物は常に私にとって、見たことのない景色を見せてくれる窓であり、訪れたことのない地や時間に想像を開いてくれる扉です。そして私のつくるものは、彼らが連れて行ってくれた風景の断片であり、おしえてくれた物語の一場面でもあります。

●冬の魅力をお伝えします～VisitほっとZoo　2017キャンペーン～

- 期間：2017年1月5日～ 2月28日
- 期間中のメインイベント
  1. 冬の動物園のみどころを「ほっとポイント」としてご案内!
  2. 駅と動物園・水族園でスタンプを集める
  「電車でまわろう! 動物園・水族園スタンプラリー」
  3. 冬の動物園・水族園のおいしさ満載!冬限定のメニューを販売。

ほかにも、各園でいろいろな「ほっとイベント」をご用意しています。

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

【ネイチャー☆プログラム】　次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

●ツリーマジック（第二公園）	1月21日(土)	1月22日(日)
	2月25日(土)	2月26日(日)
●あおぞら実験室（井の頭池付近）	1月15日(日)	2月 5日(日)
●グリーンバード（井の頭池付近）	1月 8日(日)	1月22日(日)
	2月12日(日)	2月26日(日)

詳しくはホームページをご覧ください。 http://www.i-np.jp/index.html に載せます。

井の頭かんさつ会

●第141回「冬の野鳥観察」　1月22日(日)　10:00～12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

募集

井の頭公園の古い写真を集めています

◀戦前の井の頭池の茶屋
写真：徳田東助氏」

2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。

なお、お借りした写真は、スキャニング後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を謹呈いたします。

お問い合わせ　ぶんしん出版 ☎0422-60-2211（担当：宮川）
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員　その12

ネズミ　と　浅見進一（あさみしんいち）さん

資料館の一角にネズミのコーナーがリニューアル。森林に生息する野ネズミのアカネズミやヒメネズミ、実はネズミの仲間ではないハリネズミなどが、種類ごとにガラス越しにのぞけるようになりました。

日本最小のネズミ、カヤネズミ（写真）は稲わらを丸めて巣を作り、昼間はその中で休みます。小屋は一見、稲がぼさぼさしているだけですが、「上からのぞくと、確かにいるんですよ」と飼育員の浅見準一さん。

ネズミの寿命は 2～3 年。繁殖も浅見さんの重要な仕事の一つです。バックヤードにはペアリング中のネズミのゲージや水槽がところ狭しと並び、ときおりカサカサ、カラカラと、動いたり水を飲んだりする音が聞こえてきます。今後展示予定のムサササビの姿もありました。昨夏に生まれて早々に木から落ち、保護された 1 頭です。浅見さんの肩にしがみつき、ぶーぶーと軽く鳴いて甘えます。「けっこう爪が鋭いんですよ。腕が傷だらけです」と浅見さんは苦笑い。

昨年アジアゾウのはな子を看取るなど、浅見さんは長く都内各園で大型動物の飼育を担当してきました。「大量のうんちを運んで膝を痛めるような重労働はありませんけれど、ネズミは細かい作業が大変。何より逃がさないように、ふたをしっかり閉めてます!」

小田原 澪（おだわら みお）　編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アジアゾウはな子の銅像、原型完成

前号でもお伝えした、はな子の銅像を作ろうという活動ですが、ついに原型が完成しました。作られたのは、美術作家の笛田亜希さん。小さいころから井の頭自然文化園に通い、はな子とともに成長してきました。その笛田さんがはな子らしい銅像ということで作ったのが、この原型です。今回は、その写真を公開します。

原型は横幅50cm、縦27.5cm、重量6kg程度。材質は硬くなる粘土です。この原型をもとに、富山県で原型師さんがさらにでっかいはな子の銅像の型を作成しています

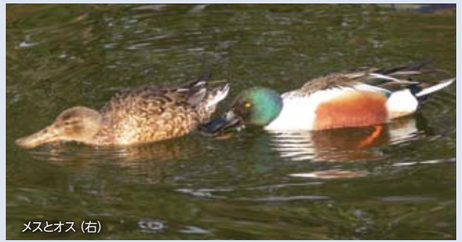
笛田さんによれば、50代くらいのはな子をイメージして製作したということで、少し若々しい感じがしますね。

吉祥寺駅北口に、はな子の銅像を作ろうという募金活動、まだまだ目標の金額には達してしません。ぜひお願いします。

井の頭自然文化園　教育普及係　大橋直哉

井の頭公園生き物たち　その32　ハシビロガモ

井の頭かんさつ会　田中 利秋（たなか としあき）　井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。



メスとオス（右）

いない理由

その名の通り、幅広で長いくちばしを持つカモです。カモ類のくちばしの両側には餌を濾しとるための「櫛（くし）歯」があります。ハシビロガモのそれはとても細かく、櫛というよりブラシです。上の写真のように、くちばしの先を水面につけたまま泳ぎ回り、先端から取り入れた水を両側のブラシを通して出すことで、プランクトンなどの微小な餌を濾しとって食べるのが得意技です。前の個体が水をかき混ぜるとプランクトンが水面に浮いてくるらしく、一列になって採食するのが見られます。

毎年来る冬鳥ですが、現在（12月）の井の頭池には１羽もいません。10月ごろは数羽来ていたのに、いなくなったのです。理由としてまず考えなければならないのは、餌の量でしょう。かいぼり29の結果、池の透明度が増しました。それはつまり、水中のプランクトンが減ったということです。かいぼり25の後にも水が澄みましたが、ハシビロガモは滞在しました。そのときの彼らは、日中は水面に浮かんでいる餌をついばんでいて、日が暮れると上記の濾過採食を始めるのでした。そこで、昼と夜にプランクトンネットを引いてみたところ、夜のほうが圧倒的に高密度のプランクトンがいることが分かりました。日が暮れると、ソウミジンコという小さなミジンコが大挙して水面近くへ上がってきていたのです。2月のことでした。先日、夜の同じ時間帯に同じ場所で同じ方法を使ってプランクトンを調べてみました。採れたのは少数のケンミジンコだけでした。今後ゾウミジンコが増えるのか、それが増えればハシビロガモが戻ってくるのか、注目しています。

もっとも、私が見た限りでは、近隣の公園の池にもこの冬はハシビロガモが少ないようです。10月末の皇居のお濠には多数いました。カモは飛べるので、より良い場所があればそちらに移動します。広い範囲を調べて比較しないと、ハシビロガモが井の頭池にいない本当の理由は分かりません。

ブラシのような櫛歯

32 ちょうどいい数

楽園はよみがえるか　カイツブリ通信

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる、小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

井の頭池が気に入ったらしいハシビロカイツブリは、その後も滞在を続けていましたが、見かける場所がボート池の開けたエリアに限られるようになりました。そこはカイツブリたちの縄張りの中間地帯なので、あまり追い立てられずに済んだようです。夜も、キンクロハジロに混じってボート池に浮かんでいました。そのハシビロカイツブリが11月25日を最後に姿を消しました。その前日の、54年ぶりという11月の降雪が気持ちを変えさせたのかもしれません。

12月10日現在、池にいるカイツブリは3カップル。いずれも仲が良さそうで、鳴き交わしたり、木の枝に巣材を積み上げる共同作業をしたりして、絆を確かめ合っています。縄張り意識が強いので、他のカップルとは争うし、冬越しだけが目的のカイツブリやハジロカイツブリの侵入も許しません。とはいえ、お茶の水池、ボート池、弁天池に1組ずつなら、おおむね平和です。たぶん3組が井の頭池にちょうどいい数です。

雪の日のハジロカイツブリ

井の頭かんさつ会　田中 利秋　http://tnt-lab.eco.coocan.jp

写真　古賀 親宗（こが もとのり）
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『**いのきちさん**』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は**井の頭公園の「いの」**、隣接する**吉祥寺の「きち」**、井の頭池が市内となる**三鷹市の三「さん」**を並べたものです。
（奇数月1日の隔月発行です）

「いのきちさん」のホームページができました！更新中！
http://www.inokichisan.com/　スマートフォン対応

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。
inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。

この印刷製品は、環境に配慮した資材に環境に配慮して製造されています。
GREEN PRINTING JAPAN P-010010

私と井の頭公園 その32

自然観察ができる井の頭公園は大変貴重

田中利秋（三鷹市在住）

この10年、井の頭公園の生き物や生態系の関心が大きく広がった。その原動力の一つが2005年から始まった「井の頭かんさつ会」の活動である。当会は昨年12月で140回になる市民向けの観察会を開催しているが、06年からの井の頭池のエサやり自粛キャンペーンの立ち上げ、07年からの井の頭池の外来生物調査の参加と駆除活動、08年の井の頭外来生物問題協議会の発足に関わり、そして13年度から実施された「かいぼり」の参加など、10年に亘り井の頭公園の自然環境を伝え守る活動をしてきた。今号はこの井の頭かんさつ会を立ち上げた代表の田中利秋さんに登場していただいた。

福井県の武生で、田んぼと自然に囲まれた少年時代を過ごした。信州大学の工学部を卒業し、東京に出て会社員になったのですが、自宅近くの井の頭池で、田舎の川にいたカイツブリを見つけ、驚きました。それがきっかけで野鳥観察に目覚め、やがて、夏休みに国立公園の戸隠（長野県）でボランティアの自然解説員をするようになりました。それで身に付いた観察眼で井の頭公園の生き物を見直したら、興味深い発見をいくつもすることができました。例えば、カイツブリはオスとメスが対等に生きていることが分かったのです。そのような継続観察は身近な公園だからこそ可能で、戸隠では困難です。都会の中にありながら、まとまった自然が残っている井の頭公園は大変貴重です。ここなら多くの人に自然の不思議さや面白さを伝えることができ、人間が及ぼしている影響についても考えてもらえるのではないかと思って、井の頭かんさつ会を始めたのです。今では仲間も増え、毎回満員になるほど成長したのがうれしいです。

（井の頭かんさつ会代表　たなかとしあき）

（聞き手・写真　川井信良）

川井信良（かわいしんすけ）
70年代80年代に、三鷹市ミニミニ「またんぴ」や「みたかきいたか」を発行。

よみがえれ！井の頭池 32

100周年の年明けに、充実の「かいぼり報告会」開催!!

井の頭恩賜公園開園100周年に「きれいな池を復活させたい」という多くの人たちの思いが集まり、平成25年度と平成27年度に「かいぼり」が実施されました。その結果、多くの在来の生き物が回復し、池水の透明度が改善しつつあります。

この成果をより良い未来につないでいくために、内容の濃い素敵な報告会が企画されました。水草や魚類、水鳥などのモニタリング調査結果や活動の報告はもちろん、井の頭池の湧水復活に向けた研究についても基調講演で学べます。お見逃しなく！

日時：平成29年1月28日（土）13時30分～16時30分
会場：三鷹市公会堂　光のホール
定員：350名（申込順）
申し込みは1月16日まで。
http://inokashiri-park100.com/のフォーム、または電話・FAX
0422-27-5634（生態工房）

▼ 多くのボランティアの活躍が支える「かいぼり」。報告も楽しみです！

井の頭恩賜公園の歩み 第31話

幕末の石灯籠が、弁天様の遠くにも！

嘉永三（1850）年に建立された石灯籠が、三鷹市牟礼の神明神社の麓に立っています。正面には「井之頭辯財天」の彫り文字がくっきり。嘉永三年といえば、ペリーが軍艦4隻を率いて浦賀に来航した年の3年前です。弁天堂から1km半ほど離れてひっそりと佇む石灯籠。なぜ、こんな場所にあるのでしょうか。

▲ 神明神社は、正月や夏祭りに賑わう。（三鷹市牟礼 2-6-12）

▲ 神明神社の麓に立つ石灯籠。

まず、石灯籠の手前に立つ看板に記された三鷹市教育委員会の説明を見てみましょう。「井の頭弁天への道標を兼ねて牟礼村の巳待講が建てた常夜灯である。以前は高井戸から連雀への道と井の頭道の分岐する角（現在の牟礼2丁目交差点付近）にあった」……街灯のない昔の暗い道にポツと灯る石灯籠を想像すると、胸が躍ります。

神明神社の宮司さんにお尋ねすると、「現在リュミエールという喫茶店のある辺りにあったようですよ」と。昭和44（1969）年に境内に移されたのは、地元の方々の意向だったそうです。

今は木々に囲まれて傾斜地にひっそりと隠れる石灯籠ですが、近寄ってみれば台座に堂々と彫られた「巳待講」の文字が目を引きます。側面に彫られた幾つもの名前は薄れてはっきりと読み取れませんが、繊細に施された美しい龍や狛犬の彫り物から、巳年の弁財天のご開帳を心待ちにしていた人々の信仰心が伝わってきます。

この石灯籠のある辺りの地名は「牟礼」と言います。江戸時代の書物には、「無礼」や「牟禮」という表記も見られます。昭和40（1965）年の住居表示整備で井の頭1～5丁目となった地域もかつては牟礼に含まれていて、弁天登のある井の頭池から神田川の南側一帯は「牟礼村」と呼ばれていました。その昔、江戸方面から徒歩で来る人々には、高井戸で人見街道に入って弁財天を目指す道筋でもあり、分かれ道で迷わぬように地元の信者たちが道標を据えたのも納得です。

ちなみに神明神社は、標高60mと市内では高所に位置します。天文6（1537）年に小田原北条氏の家臣北条綱種が江戸城の守護のために、深大寺城と相対して築陣した旧跡と伝えられます。初詣も兼ねて、訪れてみてはいかがですか。

安田 知代

安田 知代（やすだ ともよ）
編集者・ライター。「井の頭公園をまるごとガイドブック」（懐かしの吉祥寺 昭和39～40年）編著。

第11回

1級渡邊安浩のいのけん受験講座

第5回井の頭公園検定試験は、2016年12月4日（日）に3・2級は三鷹産業プラザで、1級は武蔵野商工会館で行われました。今回の受験者数は昨年とほぼ同じで合計103名でした。

3・2級受験者は84名で、3級合格者は45名（54%）、2級合格者は35名（42%）でした。1級受験者は19名で、合格者は4名（21%）でした。3・2級は、昨年とほぼ同じ合格率でしたが、1級は昨年の約半分でした。やはり、1級は難しいですね。

井の頭公園検定試験は、来年の井の頭公園創立100周年をもちまして、これまでの「いのけん」は一旦終了となります。今年2級に合格された方は、是非来年1級合格を目指して頑張って下さい。

井の頭公園開園100周年記念映画

「PARKSパークス」が4/22よりテアトル新宿にて公開

井の頭公園開園100周年を記念した映画「PARKSパークス」が4月22日（土）よりテアトル新宿にて公開されることが決まりました。

現代の青年たちと50年前の青年たちが音楽を通して歩む青春を、まるで胎内のように井の頭公園が包み込んでいる物語。今も昔も変わらぬ青春と、今も昔も変わらず若人を受け入れている井の頭公園が印象深い。（川井）